

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.74

2018.4-5

市川猿之助
岩井秀人 × さいたまゴールド・シアター
コンドルズ
フィリップ・ドゥクフレ
モルゴーア・クアルテット

埼玉
アーツ
シアター
通信




Tribute to 蜷川幸雄

市川猿之助

自然に
分かれ
合った
異端の
二人



いちかわ・えんのすけ
1980年初御目見得、1983年二代目市川亀治郎を名乗り初舞台。2012年四代目市川猿之助を襲名し、歌舞伎はもちろん、現代劇、映画、ドラマで活躍している。4月は大阪松竹座にてスーパー歌舞伎Ⅱ『ワンピース』に出演。

取材・文 ● 川添史子
協力 ● 西麻布 musica

今号から、蜷川幸雄さんが遺したものをクリエイターの言葉で振り返る。記念すべき初回は、歌舞伎界の風雲児、四代目市川猿之助さんにご登場いただいた。

最初の出会いは猿之助さんが亀治郎時代に出演した『NINAGAWA十二夜』。客席を大いにわかせた狂言回し、腰元の麻阿役は今でも語り草である。

「初日の幕が開いて、鏡の装置に客席が写った瞬間、これは素晴らしいなと思いました。同時に『満席じゃなかったら悲惨だったな』とも思いましたけれど（笑）。歌舞伎座では提灯が写り込んで、それもまた美しかったですね」

彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾オールメーブル『じゃじゃ馬馴らし』では従順に〈馴らされた〉キャタリーナの独白を剣を抜いて語り、女性のしたたかさを表現。同作のインタビューで蜷川氏は「フェミニストも納得させたい」と語ったが、その狙いを鮮やかに昇華した演技であった。次の第28弾『ヴェニスの商人』を提案したのは、猿之助からだったそう。歌舞伎の演技をそのまま持ち込み〈異形性〉を際立たせ、共同体におけ



『ヴェニスの商人』 Photo◎清田征剛

る異分子シャイロックが浮かび上がった。

「僕は普段通り歌舞伎で演じただけで、蜷川さんが生かしてくださったんでしょう。蜷川さんとは言葉を尽くさなくても分かり合えましたし『俺たちはシャイロックだよな。異端でい続けよう』とおっしゃったことを覚えています。通じ合う何かを感じてくださっていたなら、うれしいですね」

こう聞くと、カッコよく法廷を去った孤高なシャイロックの姿が、二人と重なっていく。

作品が時代を越えれば演劇の財産になる——伝統の世界に生きる人はそれを良く知っている。「演劇人が本当に蜷川さんを尊敬し功績を称えるなら、遺った作品をどんどんやらないといけないでしょうね」と語る言葉には、同時代を生きた舞台人としての、最大のリスペクトも込められている気がした。

「もしも、もう一作、蜷川さんと一緒にできるなら何を選びますか？」と聞くと、最後にタッグを組んだ『元禄港歌』と同じ作家、秋元松代の『近松心中物語』と即答した。「いいね！ いつやる？」という蜷川さんの声が聞こえるようだ。



Photo◎宮川舞子



ゴールド・アーツ・クラブ
〈ノゾエ征爾演劇ワークショップ成果発表〉

2.24(土)・25(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

平均年齢70.3歳、60歳以上のための芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」のメンバーが、ノゾエ征爾の指導で約2カ月の演劇ワークショップに取り組み、成果発表を開催。モリエールの『病は気から』をベースにしたノゾエ征爾脚本・演出のオリジナル作品に約760名が取り組んだ。

CONTENTS

4 PLAY > さいたまゴールド・シアター番外公演
『フレワレのモロモロ ゴールド・シアター2018春』

6 PLAY > さいたまネクスト・シアター^{ゼロ} 世界最前線の演劇1
『ジハードーDjihadー』

8 DANCE > コンドルズ 埼玉公演2018新作
『18TICKET』

10 DANCE > フィリップ・ドゥクフレ/DCA
『新作短編集(2017)ーNouvelles Pièces Courtes』

12 MUSIC > 2018年度 音楽公演 ラインナップ紹介

14 MUSIC > 彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画「次代へ伝えたい名曲」第13回
モルゴーア・カルテット

16 MUSIC > ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.34
シャルル・リシャル＝アムラン

18 REVIEW

20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ

23 INFORMATION

24 COLUMN > 林家彦いちの 一歩外へ。

編集◎川添史子、榎原律子 表紙画◎波多野光 デザイン◎GOAT

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 1.Apr.2018 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2018年3月15日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

岩井秀人

Hideto Iwai

1974年武蔵小金井出身。2003年ハイバイを結成。2007年より青年団演出部に所属。2012年NHKBSプレミアムドラマ「生むと生まれるそれからのこと」で第30回向田邦子賞、2013年「ある女」で第57回岸田國土戯曲賞を受賞。2014年小説「ヒッキー・カンクントルネード」を上梓。2017年3月コドモ発射プロジェクト「なむはむはだむ」（主催：東京芸術劇場）に参加、2018年冬に仏国立演劇センタージュヌビリエ劇場での共同製作によってフェスティバル・ドートンヌ・パリに参加するなど、幅広い活動が注目されている。

——「ワレワレのモロモロ」のクリエイションは、いつもワークショップから始まるそうですね。

はい。まず車座になって、それぞれの「ヒドい目に遭った話」をしてもらいます。それをみんなでゲラゲラ笑いながら聞いて、これぞって話を二つくらい選んで「こっちチームは彼女の話、こっちチームは彼の話」を演劇にしてください、20分で、ヨーイドン！みたいなワークショップですね。——日本人って「話してください」と言われてもなかなかしゃべれないんじゃないですか？

まず僕から先に自分の話をするんです。失恋ついでに幻覚を見たとか……うちの恋敵の車だと思って蹴っ飛ばしたら、ぜんぜん別の人の車だったとかね。——じゃあ今回もワークショップで出た話を台本に……みなさん手紙なんです。

だってみんなパソコン使えないんですもん。これ大誤算。達筆すぎて読めないし。上演台本の形にするの大変だし（笑）。

《2011年に始まった「モロモロシリーズ」は、さまざまな場所で制作されてきた。それは、自身の十代後半におけるひきこもりの体験をもとに、岩井が初めて舞台作品『ヒッキー・カンクントルネード』を書いたこととも連なっている。演劇によって岩井本人が救われたように、誰かの「生きづらさ」をちょっぴりゆるめるような企画なのである。》

さいたまゴールド・シアター番外公演 『ワレワレのモロモロ ゴールド・シアター2018春』

岩井秀人 Interview

意識下にある 細い川のような経験を物語化する

岩松了、ケラリーノ・サンドロヴィッチ、松井周といった現代を代表する作家たちの新作に挑んできた「さいたまゴールド・シアター」が次にタッグを組むのは、彼らと同様に「岸田國土戯曲賞」を受賞した劇団ハイバイの岩井秀人だ。それまたただの新作ではなく、参加者が自らの体験を語るワークショップから作品を立ち上げていく企画「ワレワレのモロモロ」を選んだというではないか！ ゴールド・シアターメンバーは、いかに「自分の人生の演劇化」に挑むのだろうか。

取材・文 ● 鈴木勲滋（演劇ライター／生活介護事業所「カブカブ」所長） Photo ● 平岩 享



Photo©宮川舞子

さいたまゴールド・シアター

Saitama Gold Theater

「年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に出会う場を提供する」という蜷川の発案を基に、2006年4月発足。2007年6月の第1回公演『船上のピクニック』（作：岩松了）以降、第一線で活躍する劇作家の新作を意欲的に上演している。2013年と2014年には連続して『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』で海外公演（2013年パリ／2014年香港・パリ）に挑み成功をおさめた。2017年9月には岩松了が書き下ろしに加え演出も手掛けた『薄い桃色のかたまり』が好評を博すなど、活動意欲は衰えを知らない。現在メンバーは67歳から92歳までの36名（男性11名、女性25名）、平均78.7歳（2018年3月31日現在）。

ええ。みなさん意識の下の階層にある細い川のようなものを話したがっている気がします。それを話せた時に、それを待ってたかのように他の人たちと奥深くで響きあうことがありますね。

——誰もが持つ、語りえなかったもの。

そう。観る人が置かれている状況によって笑うのか泣くのか、響き方のアウトプットは違うけれど。だから、それぞれの人生を作品に立ち上げようとする自己が、とても価値のあることだと思っています。

《「年齢を重ねるということは、様々な経験を、つまり深い喜びや悲しみや平穏な日々を生きてきた」ということの証でもあります。その年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に出会うことは可能ではないか？ということが、私が高齢者の演劇集団を創ろうと思った動機です」かつて、蜷川はそう語った。

蜷川に関わりによりゴールド・シアターの人々が、それぞれの個人史を身体表現へと思う存分に発露させえたのは、いわば外への解放であった。その上で、岩井の自らを晒す関わりが、それまで語りえなかったもの見つめ直す、内なる解放をもたらしつつある。》

——関係を積み重ねたら話せるようになることもあるんじゃないですか？

そうだろうと思いますよ。僕は勝手にこれは何カ年計画みたいに考えています。

《いわゆる「終活」を始めていて、まさによい機会なのだけでも、ちゃんとやるには時間がかかると今回は辞退した方もあるそう。そう聞くと、なおさらこの企画を続けてほしい。

what's

「ワレワレのモロモロ」

岩井が2011年から全国の学校、公共ホールで開催してきた自作自演で作り上げる形の公演。参加者が実際の出来事を「自分で書いて、演じる」オムニバスで、岩井は構成・演出を担当する。

チケット販売中

さいたまゴールド・シアター番外公演

『ワレワレのモロモロ
ゴールド・シアター2018春』

5.10(木)～20(日)
彩の国さいたま芸術劇場
NINAGAWA STUDIO

[構成・演出] 岩井秀人
[出演] さいたまゴールド・シアター ユニット

チケット(税込) 全席自由(整理番号付)
一般 3,500円 U-25* 2,500円 メンバース 3,200円
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。
入場時に身分証明書をご提示ください。

	5	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
14:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

※開場は開演の20分前です。
※開場時間よりチケットに記載されている整理番号順のご入場となります。開場時間を過ぎますと整理番号は無効になります。
※特設劇場での上演のため、椅子の形状が通常と異なります。
※アフタートークあり（詳細は後日財団ホームページにて発表いたします）。
☆5月16日（水）、17日（木）、20日（日）は終演後、本作の制作過程を追ったドキュメンタリー映像を、彩の国さいたま芸術劇場・映像ホールにて上映致します。
当日以外の公演チケットをご購入の方でも、入場の際に半券をご提示のうえ入場いただけます。（入場無料）

コンドルズ 埼玉公演2018新作 『18TICKET』

コンドルズ主宰・振付家

コンドルズ・メンバー

近藤良平 × スズキ拓朗

昨年の『17's MAP』では尾崎豊の名曲「十七歳の地図」をキーに〈大人たちの思春期〉をストーリー性あるダンスとして繰り広げたコンドルズ。待望の新作タイトルは『18TICKET』。これは青春18切符を意味するそうだ。思い出の旅、旅の奥深さ、そしてチケットから広がる夢について、近藤良平と若手メンバー・スズキ拓朗に聞く。

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 山出高士

チケットを握って、
人生の冒険に飛び乗れ！

——今年のタイトル『18TICKET』は、列車の1日乗り放題チケット〈青春18切符〉のことですね。

近藤 青春18切符って「24時間でどこまで行けるか」という夢が見られるんですよ。どんなチケットも、手に入れた時点ですごく心が解放される感覚があるでしょ。
スズキ あ〜チケットにある夢、分かります。僕、映画の『チャーリーとチョコレート工場』が好きで、あれって冒頭、チケットを引き当てた子どもに工場見学の手配が与えられるんですよ。チケットって〈きっかけ〉でもある気がします。でも今は、ICカードで電車は乗れるし、演劇のチケットもQRコードが出てきましたし……。

近藤 そのうち紙じゃなくなるのかもね。昔の飛行機のチケットとか、すごい枚数だったんだよ！（笑）

——思い出に残る旅の話も伺えますか？

近藤 随分昔なんですけど、フランスを回ってた時、冬で雲は低くて雨も多かったし、人もどこか冷たく感じて憂鬱だったんですよ。でもヒッチハイクしながらピレネーを越えたら、急に太陽と調子いいやつらが出てきてすごく解放されて。山脈が傘になってフランス側は暗いんじゃないかと思ったよね（笑）。こういう陸路で知る感覚を見つけるとやっぱり楽しいです。あっちにはトーマス・クックというヨーロッパ全域を網羅した偉大な時刻表があるんだけど、ピレネーにはそれに載ってない電車もあって、すごくワクワクした（笑）。まだ拓朗が入る前だけど、コンドルズ・メンバーでフィラデルフィアからニューヨークに入る瞬間のことも良く覚えてるなあ。電車がマンハッタンに近づくにつれて「俺たち、なんかいいよなあ」って（一同笑）、ちょっとドキドキしたね。

スズキ 今回のチラシは香港ツアー時に地下鉄で撮影した写真ですね。コンドルズの旅は、みんな身軽な雰囲気。僕も荷物はほぼYシャツと学ランだけですし、石淵さん

なんか、それすらも着て来るし。

近藤 石淵さんはなんにも持って行かないのに、普通のスーツケースだから不思議なんだよね。開けると6分の1も埋まってなくて、ちょっと意味が分からない（笑）。
スズキ 「ずっと学ランでいいじゃん」って言ってますし、「汗かいたらどうするんですか？」って聞いても「そんな汗かく？」って、いろいろすごい（笑）。良平さんはいつも「2週間を越えないと旅したことにならない」って言いますよね。

近藤 そうそう。2週間以上あれば、さすがに全部予定通りにはいかないし、不安になったり、少しあきらめたり、自分を見つめる時間ができたり、急に見えるものが美しくなったり、これまでと切り離された時間がやってくるから。飛行機が地面を離れる瞬間、出発する直前までの慌ただしさがウソのように、全てに諦めが付くじゃん

い？ あの何かを捨てた清々しい瞬間。今は飛行機の中でもWi-Fiがつかっちゃうって、最悪だよ！（笑）

スズキ 僕は身体が弱いから、2週間も海外にいと具合悪くなっちゃう（笑）。この間も韓国で急に目が腫れて病院に行ったら、きれいな女医さんに、お尻に注射を打たれて……びっくりしたら「カワイイ♡」みたいな顔されて。しかも緊張して固くならないようにお尻を叩かれたし、1日で治ったし。全てがカルチャーショックでしたね。

近藤 あはははは！

——国ごと、空港ごとの匂いの違いなんかも、旅で足を踏み入れてみないと気づかない要素ですよ。

スズキ あー、そうそう！

近藤 違うよねえ。昔はフランスのエア

チケットって別のところに運んでくれるツールだし、なんか希望があるんだよね。



チケット販売中

コンドルズ 埼玉公演2018新作

『18TICKET』

6.2(土) 14:00★／19:00、3(日) 15:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[構成・映像・振付] 近藤良平

[出演] コンドルズ

チケット(税込) 一般 前売 S席5,000円 A席3,500円

U-25* 前売 S席3,000円 A席2,000円

メンバーズ 前売 S席4,500円 A席3,200円

※当日券は各席種とも+500円

※A席(サイドバルコニー)は舞台上で見えない部分がある場合がございます。

※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内をお待ちいただきます。

※U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書を提示ください。

販売中【特別チケット】

未就学児チケット

★6月2日(土) 14:00の回のみで、0歳から入場が可能です。

未就学児(0歳～6歳): S席1,500円

※S席のみ。エリア限定(RST列)となります。枚数制限あり。

※未就学児の入場には保護者の同伴が必要です。

※膝上鑑賞無料(ただし3歳まで)。

※4歳以上、また3歳以下の場合も座席を指定する場合はチケットが必要です。

100席限定

コンドルズ+フィリップ・ドゥクフレ/DCA セット券

チケット(税込) 一般セット 10,000円 U-25 6,000円

※S席・前売のみ

※フィリップ・ドゥクフレ/DCA公演の詳細はP.10-11をご覧ください。

コンドルズ
CONDORS

男性のみで結成されたダンスカンパニー。舞台衣装は学ラン。ダンス、生演奏、人形劇、映像、コントを大胆に展開するジャンル横断的な手法で、独自の世界観溢れる舞台を創り出す。国内はもとより、これまでに世界約30ヵ国で公演。ダンスだけでなく演劇、TV、ラジオ、映画への出演・振付も多数。日本の舞台芸術界で異彩を放つ注目のダンス・グループ。2016年に結成20周年を迎え、NHKホールで2日間の単独公演を行った。

ポートも荷物受け渡し所でみんな煙草を吸っちゃうから（笑）、ゴロワーズの匂いがすごかった。

スズキ 人間って匂いで記憶がよみがえるってことあるじゃないですか。今、匂いを閉じ込めたカプセルというのがあって「この時を覚えておきたい」という時に吸って、思い出したい時に同じ匂いを嗅いで、その時の情景とか表情をよみがえらせるカプセルが売ってるらしいですよ。



来日公演の多さでは屈指の人気を誇るフィリップ・ドゥクフレ。予想のつかない、しかしユーモアと驚きに満ちたアイデアを魔術師のように次々と舞台上へ展開していく。今度の来日公演は、新作短編集だという。そこで本稿では過去の来日作品を振り返りながら、ドゥクフレという万華鏡のような作家の世界を探っていこう。

彩の国さいたま芸術劇場といえば、ドゥクフレの過去作品の名場面を集めた記念碑的な作品『パノラマ (Panorama)』(2012年)を覚えている人も多いだろう。ドゥクフレの出世作でもある『バーグ・カフェ (Vague café)』(1983年)以来の様々なシーンを含んだ公演だった。しかしドゥクフレの作品が初めて日本のダンスファンに

触れたのは、映像作品の方が先だったかもしれない。若きドゥクフレ自身も踊る『コデックス (Codex)』(1986年)は、スタイリッシュな男のダンサー達がズボンのポケットに手を入れたまま格好よく踊るシーンが有名だ。ここではレジーヌ・ショピノ・カンパニー（ドゥクフレがかつてダンサーとして所属していた）で仲間だったダニエル・ラリュールも参加している。

この『コデックス』では「大きな足ヒレと、同じ形のオブジェが頭についているので、映像を上下逆にされると、どっちが上かわからない」という視覚トリックの萌芽も見せている。本来、衣裳はダンサーが動きやすいようにデザインするのが普通だ。しかしドゥクフレは、わざと動きにく



『コデックス』(『パノラマ』より) Photo©Arnold Groeschel

い、ダンサーの身体に負荷を強いるような衣裳を着せたりする。衣裳に抗って動くことで、映像を上下逆にされると、どっちが上かわからない」という視覚トリックの萌芽も見せている。本来、衣裳はダンサーが動きやすいようにデザインするのが普通だ。しかしドゥクフレは、わざと動きにく

ドゥクフレの名を一躍有名にしたのは、31歳という若さでアルペールビル冬季オリンピックの開閉会式の演出(1992年)を手がけたことである。このときの「土地の妖精などのカラフルな被り物の大行進」は、それ以降のオリンピックにも影響を与えた。

この巨大イベントの翌年に創られたのが「小さな」という単語の入った『プティット・ピエス・モンテ (Petites Pièces Montées)』(1993年)。じつは初来日公演はこれだった。フィリップ・ギヨテルがデザインした奇妙な衣裳を着た奇怪な人々が、デフォルメされた家で踊る。この中には逆さに吊られたダンサーが歩くシーンがあるが、この「重力の方向がわからなくなる浮遊感」というのもドゥクフレの真骨頂のひとつである。それは今回の『新作短編集』でも楽しめる。

フィリップ・ドゥクフレ/DCA 『新作短編集(2017) —Nouvelles Pièces Courtes』

ファンタジックでユーモラスで奇想天外。さまざまな要素で編みあげられた、万華鏡のような世界。日本でも多くのファンを持つフィリップ・ドゥクフレが、オムニバス形式の短編集を引っさげて来日する！過去の来日作品を振り返りながら、その唯一無二のダンスを探る。

※（ ）は初演年

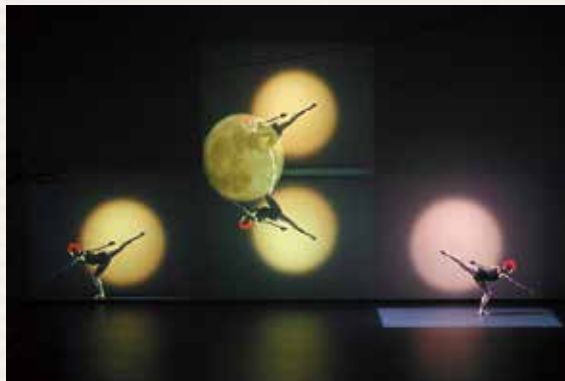
文●乗越たかお NORIKOSHI TAKAO (作家・ヤサぐれ舞踊評論家)



『プティット・ピエス・モンテ』 Photo©Arnold Groeschel

さて『シャザム! (Shazam!)』(1998年)は、カンヌ国際映画祭の50周年セレモニー用に創った作品を発展させたもので、映像ならではの視覚トリックを駆使している。これは、はじめ1枚の絵(画像)だと思っていたものが、じつは「大小のフレームや遠近法を利用してダンサーを一直線に並べて撮影したもの」だとわかってくる。一枚の絵のように見えるのは、真正面から見たときだけなのである。

こうした「映像と現実の混淆」もドゥクフレの得意とするところだ。『新作短編集』でもダンサーの動きを時間差で映像が幾重にも追いかけてくるシーンがある。『イリス (Iris)』(2003年)や、ドゥクフレ自身の『ソロ (Solo)』(2003年)のように、実物と区別がつかないほどの精密な映像を使



『イリス』 Photo©Arnold Groeschel

フィリップ・ドゥクフレ

Philippe Decouflé

振付家・演出家。1983年カンパニー DCA 設立。1992年アルペールビル冬季五輪開閉会式を31歳の若さで手がけ、サーカスとダンスが交錯する奇想天外な演出で一躍世界に知られる。1994年『プティット・ピエス・モンテ』で初来日。2003年日仏中の国際共同製作として『イリス』を日本初演。DCAでの活動のほか、CM・ミュージックビデオや、サーカス集団シルク・ドゥ・ソレイユのショーを演出・振付するなど、ジャンルを横断して幅広く活躍。

うことはあるが、今流行のプロジェクション・マッピングなど「いかにも最新技術」を誇るような使い方はしないのがドゥクフレである。

それは『パノラマ』をはじめ、様々な作品に使われている影絵／幻灯(ファンタスマゴリア。映画が発明される前の時代に流行した、影を大きく映し出す見世物のこと)の精神なのだ。電気という科学技術と人間の想像力が生み出す幸福なイリュージョンである。ドゥクフレは最新技術をローテクのように使ったり、ローテクのなかに最新技術を差し込んでくる。そのセンスとバランスが絶妙なのである。

映像にはもうひとつ特徴的な性質がある。それは観客の視点を誘導する「ズームアップ」である。短編映画『ル・プティ・バル (Le P'tit Bal)』(1994年)はドゥクフレ自身が草原に置いたテーブルの上で手だけのダンスを踊る作品。この「手先のダンス」も『新作短編集』でもステキに活かさ



『コンタクト』 Photo©Arnold Groeschel

れている。

そして『新作短編集』の中には日本のファンには嬉しいことがひとつある。日本を題材にしたシーンが創られているのだ。ドゥクフレはもとより日本文化好きを公言していて、日本でのミュージカルの振付・演出などもしている。2003年には横浜と山口に滞在し、日本人ダンサーをオーディションで決めて『イリス』を創った。これは舞台上に一般的な日本家屋が半分にぶった切られて中身が丸見えになっている。現代日本の様々なリアルさを取りこんだ作品だった。

日本の文化を採り入れたものは他にもある。亡くなったピナ・バウシュへのオマージュでもある『コンタクト (Contact)』(2014年)は、ゲーテの『ファウスト』がテーマ。短めのシーンが続々と続いていく。その中で女性が大きめの箱の中で踊るシーンがあるが、これは日本の写真家、荒木経惟の写真からのインスピレーションだという(舞台では女性ダンサーは箱から出てくるのだが)。

……等々。ざっと見てただけでも、その多彩さはわかってもらえるのではないだろうか。『新作短編集』は、ひとつの作品にまとまりきらないほどインパクトのあるアイデアが、四方八方に弾け飛ぶドゥクフレの才能を味わうことができるだろう。

チケット販売中

フィリップ・ドゥクフレ / DCA
『新作短編集(2017)
—Nouvelles Pièces Courtes』

6.29(金)19:00、30(土)・7.1(日)15:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出・振付]フィリップ・ドゥクフレ

[出演]カンパニーDCA

チケット(税込) 一般前売 S席6,500円 A席4,000円
U-25*(高校生~25歳)前売 S席3,500円 A席2,000円
子ども**(4歳~中学生)前売 S席1,500円 A席1,000円
メンバーズ前売 S席6,000円 A席3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

**枚数制限あり。3歳以下のお子様のご入場はご遠慮ください(2歳以上の未就学児の有料託児サービスあり)。

※当日券は各席種とも+500円

※A席(サイドバルコニー・2階席の一部)は舞台の一部が見えない場合がございます。予めご了承ください。

販売中【特別チケット】

100席限定

コンドルズ+フィリップ・ドゥクフレ/DCA セット券

チケット(税込) 一般セット 10,000円 U-25 6,000円

※S席・前売のみ ※コンドルズ公演の詳細はP8-9をご覧ください。

Philippe Decouflé / DCA



モルゴーア・クアルテット



シャルル・リシャル＝アムラン



大塚直哉 Photo©R.Hotta



ベルリン・フィル プラス・トリオ

ヴァレリー・アフナシエフ
Photo©Kiyotane Hayashiダニエル・シュエ
Photo©Jeremy Enlow/The Cliburn

アレクセイ・ゲラシメス Photo©Nikolaj Lund



レミ・ジュニエ Photo©Jean-Baptiste Millot

埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストラランド! Photo©加藤英弘バッハ・コレギウム・ジャパン
指揮 鈴木雅明
Photo©Marco Borggreveアリーナ・イブラギモヴァ&
セドリック・ティベルギアン
Photo©Sussie Ahlburg

清水和音 Photo©Mana Miki

井上道義 Photo©Mieko Urisaka
辻 彩奈 Photo©大杉集平どれも
聴き逃せ
ない!

彩の国さいたま芸術劇場 & 埼玉会館

2018年度 音楽公演 ラインナップ紹介

話題の若手の鮮烈な演奏から、世界的な名手の円熟の演奏まで
バラエティ豊かな顔ぶれに期待がつのる2018年度の音楽公演ラインナップ。聴きどころをご紹介します。

文 ● 飯尾洋一 (音楽ライター)

難関コンクール入賞者が勢ぞろい 「ピアノ・エトワール・シリーズ」

世界が注目する名演奏家から、好評のシリーズ企画まで。今年度も彩の国さいたま芸術劇場と埼玉会館の舞台に多彩なアーティストたちが登場する。2018年度の音楽公演ラインナップを展望したい。

まずは彩の国さいたま芸術劇場の名物企画といってもよい「ピアノ・エトワール・シリーズ」から。このシリーズでは今もっとも注目される旬の若手ピアニストたちが招かれ、それぞれ個性豊かな意欲的なプログラムを披露する。

シリーズVol.34に出演するのはカナダ出身のシャルル・リシャル＝アムラン。2015年に開催されたショパン国際ピアノ・コンクールで第2位とクリスチャン・ツィメルマン賞(ベスト・ソナタ賞)を受賞して、一躍国際的な注目を浴びた新星である。ショパンとモーツァルトにアルメニアの作曲家ババジャニアンを組み合わせたプログラムが面白い。ショパンのバラード全4曲は聴きものだ。

シリーズVol.35ではダニエル・シュエが登場する。アメリカのカーティス音楽院で学び、2017年のヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクールで第3位に入賞

した新鋭で、すでに名門フィラデルフィア管弦楽団との共演を果たしている。コンピューター・プログラミングにも親しんでおり、アップル・デザイン・アワードを受賞したiPhoneアプリWorkflowの開発に貢献したというあたり、いかにも新世代の才能といった感がある。

シリーズVol.36はフランスのレミ・ジュニエ。若手ながらすでに実績十分の名手である。難曲として知られるストラヴィンスキーの《「ペトルーシュカ」からの3楽章》では、鮮やかな超絶技巧を炸裂させることだろう。

「次代へ伝えたい名曲」は 弦楽四重奏とピアノ

こちらも好評のシリーズ企画「次代へ伝えたい名曲」では、第13回にモルゴーア・クアルテット、第14回に清水和音が出演する。日本のトップアーティストが次世代への思いを込めた名曲を演奏するというこのシリーズでは、選曲の妙を楽しみたい。

モルゴーア・クアルテットが用意するプログラムは驚きだ。ハイドンとツェムリンスキーという新旧ウィーンの作曲家に加えて、「プロテストとしての音楽」として、ソ連の圧政下で作曲活動が続けたショスタコーヴィチと、ヘビメタの代表格であるメタリ

カが演奏される。曲は《メタルマスター(マスター・オヴ・パペッツ)》。第1ヴァイオリンの荒井英治編による弦楽四重奏バージョンである。モルゴーア・クアルテットならではの刺激的なプログラムが実現した。

また、清水和音がどんなプログラムを組んでくれるのかも気になるところ。趣向を凝らした選曲を期待したい。

バス、ピアノ、打楽器、ヴァイオリン 世界的名手の演奏に興奮!

個別の公演でも魅力的なアーティストが目白押しとなっている。吹奏楽ファンにもオーケストラ・ファンにもアピールしそうなのが、ベルリン・フィル プラス・トリオ。トランペットのタルケヴィ、ホルンのズスト、トロンボーンのソレンセンというベルリン・フィルのスーパープレーヤーたちがトリオを組む。神技必至。

鬼オヴァレリー・アフナシエフのピアノも話題を呼びそうだ。型にはまらない演奏解釈、哲学的な物言いで知られるアフナシエフだが、近年は円熟の境地へと到達しつつある。

アレクセイ・ゲラシメスのパーカッション・リサイタルには大きな驚きが待っているはず。打楽器のリサイタルとはどんなものなのか。タン・ドゥンやサシャ・ヴァル

SCHEDULE

※2018.3.現在。やむを得ぬ事情により、出演者等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

彩の国さいたま芸術劇場

●5月12日(土)15:00
「次代へ伝えたい名曲」第13回
モルゴーア・クアルテット
☞ 詳細はP.12-13

●6月10日(日)15:00
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.34
シャルル・リシャル＝アムラン
ピアノ・リサイタル ☞ 詳細はP.14-15

●9月2日(日)14:00
大塚直哉レクチャー・コンサート
J. S. バッハ「平均律クラヴィーア」の魅力
ポジティブ・オルガン vs チェンバロ その1

●9月30日(日)14:00
ベルリン・フィル プラス・トリオ

●10月13日(土)15:00
ヴァレリー・アフナシエフ
ピアノ・リサイタル

●10月28日(日)15:00
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.35
ダニエル・シュエ ピアノ・リサイタル

●11月4日(日)15:00
アレクセイ・ゲラシメス
パーカッション・リサイタル

●11月24日(土)15:00
バッハ・コレギウム・ジャパン
J. S. バッハ《クリスマス・オラトリオ》

●2019年1月12日(土)15:00
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.36
レミ・ジュニエ ピアノ・リサイタル

●2019年2月17日(日)15:00
アリーナ・イブラギモヴァ&
セドリック・ティベルギアン
デュオ・リサイタル

●2019年2月24日(日)15:00
「次代へ伝えたい名曲」第14回
清水和音 ピアノ・リサイタル

光の庭ブロムナード・コンサート

ポジティブ・オルガン(移動可能な小型のパイプオルガン)と器楽・声楽とのアンサンブルでお届けする入場無料のミニ・コンサートです。

☞ 5月公演の詳細はP.20、P.23

埼玉会館

●7月28日(土)14:00(休憩あり 16:00終演予定)
埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストラランド!
飯森範親(指揮) 朝岡 聡(司会)
東京交響楽団

●10月6日(土)16:00
NHK交響楽団
井上道義(指揮) 辻 彩奈(ヴァイオリン)

埼玉会館ランチタイム・コンサート
各回12:10~13:00 全席指定1,000円

◆第35回 6月29日(金)
天羽明恵(ソプラノ)

◆第36回 9月11日(火)
NHK交響楽団メンバー&梯 剛之(ピアノ)

◆第37回 12月7日(金)
トルヴェール・クワルテット
(サクソフォン四重奏)
with 小柳美奈子(ピアノ)

◆第38回 2019年3月13日(水)
東京交響楽団メンバーによる金管五重奏

ツとも共演してヨーロッパを席卷する名手が、打楽器の表現の可能性を追求する。

ヴァイオリンのアリーナ・イブラギモヴァとピアノのセドリック・ティベルギアンも、まちがいないエキサイティングな演奏をくりひろげることだろう。イブラギモヴァの生気にあふれた演奏は、常に聴衆を魅了する。

世界最高峰のバッハを身近に楽しむ

古楽ファンにとって興味深いのは、大塚直哉レクチャー・コンサート。「J. S. バッハ「平均律クラヴィーア」の魅力」と題して、同曲集第1巻の前半12曲に焦点を当てる。チェンバロとポジティブ・オルガンの聴き比べがうれしい。バッハの音楽を聴く喜びとともに、好奇心を満たしてくれる好企画である。

もうひとつ、古楽の分野では恒例の鈴木雅明指揮バッハ・コレギウム・ジャパンの演奏も聴き逃さない。例年、バッハやヘンデルの大曲を聴かせてくれるバッハ・コレギウム・ジャパンだが、今回取り上げるのはバッハの《クリスマス・オラトリオ》。クリスマス・シーズンのために書かれた6曲のカンタータがセットとなった傑作である。クリスマスより一足早く、バッハ渾身の傑作に浸りたい。

オーケストラと出会う埼玉会館

また、埼玉会館でもさまざまな公演が開かれる。「夏休みオーケストラランド!」では家族でオーケストラの魅力をたっぷりと楽しめる。飯森範親指揮の東京交響楽団と朝岡聡のナビゲートにより、ロッシーニの歌劇「ウィリアム・テル」序曲他、親しみや

すい名曲が演奏される。「指揮者にチャレンジ!」コーナーや、歌や各自が持参する楽器でオーケストラと共演する「みんなで歌おう&演奏しよう!」コーナーなど、単に聴くだけではなく、参加できるコンサートになっているのが特徴だ。

N響演奏会を指揮するのはベテランの井上道義。今年出光音楽賞を受賞した若手ヴァイオリニスト、辻彩奈との共演に注目したい。日本を代表するオーケストラが迫力のサウンドを聴かせる。

なお、埼玉会館ではランチタイム・コンサートも全4公演開催される。昼のひとときを優雅に過ごしたい方におすすめしたい。

例年にも増して楽しい公演がそろった2018年度の音楽公演ラインナップ。心に残る名演との出会いが待ち遠しい。

日本拠点の弦楽四重奏団の成功例としての

モルゴーア・クアルテット

文 ● 渡辺 和 (音楽ジャーナリスト)

モルゴーア・クアルテット (以下Q) は、2018年の日本で最も成功している弦楽四重奏団のひとつである。日本を拠点とするクアルテットに於ける成功とは、「音楽家たちが自分らのやりたい音楽をやれ、聴きたいと思う聴衆がコンサートを成り立たせる程度は維持出来ている」という、なんとも慎ましいものとはいえ。そんな環境にあって、モルゴーアQは世界に類例のない独特な弦楽四重奏団として四半世紀の歴史を刻んできた。モルゴーアQ成功のキーポイントを二点に絞り論じてみよう。ひとつは、日本の室内楽を取り巻く状況に現実的に対応した運営。もうひとつは、明快な音楽史観を背景としたレパートリー構成。

常設クアルテットのあり方いろいろ

日本に限らず、弦楽四重奏には常設幻想がある。とはいえ、所謂常設弦楽四重奏団の実体は多種多様。メイジャーレーベルからCDをリリースする著名団体でも、年間レパートリーが3つ程度で演奏会総数も2ダース程度、ただし著名ホールや大音楽祭ばかり、という例は珍しくない。「弦楽四重奏を専門とする音楽家が、本番がない日も練習を重ね、年間に60回から100回の有料公演をこなして

計を立てる」という常設団体は、20世紀半ば頃のブダペストQやアマデウスQなど数団体で実現した例外的な姿。21世紀初頭の今の地球上では、アルディッティQのようなスーパー専門家集団を除けば、オケは弾かない弦楽四重奏専任団員を雇用するゲヴァントハウス管や、超小型オーケストラ組織で運営されるオーストラリアQなどの特殊例しかない。

山田耕筈がチェロに座り明治42年に旗揚げ演奏会をした多Q以来、常設弦楽四重奏団の夢を追い続けた日本の室内楽界だが、新響(N響の前身)メンバーに拠る団体がなんとか定期的に弦楽四重奏を響かせるのが精一杯だった。「都市のオーケストラ団員が、その団体の主催で室内楽を定期的に演奏する」という形で展開するヴィーンやライブツィヒなど欧州諸都市の姿に一見似た状況ではあるものの、日本ではオーケストラは室内楽団運営の直接のバックにはなかった。とはいえ、1960年代半ばから70年代終わりまで、東京文化会館でシーズン中毎月1回の定期演奏会を重ねた巖本真理Qの弦楽四重奏ファンへのインパクトは余りに大きかった。日本の室内楽愛好家が「あれこそが弦楽四重奏の姿」と信じるようになったのも仕方あるまい。ちなみに、同様の同一会場月1回定期を数シーズン続けた団体は、世界でも最盛期キュッヒルQの例くらいしか思い浮かばない。

欧米音楽界の動向を左右する大手音楽事務所は、オーケストラの正規メンバーを含むクアルテットとはまず契約しない。最近も、某著名室内楽コンクールで優勝したベルリン拠点の団体が、ベルリンフィルやドイツ響らの正規団員を含むが故に自分らにはマネージャーが付かない、と嘆いていた。モルゴーアQのように「異なるオーケストラの顔とも言えるスター奏者が、各オーケストラでの責

務をきちんと果たしつつ、年に何度か集中的に弦楽四重奏を演奏し四半世紀に及ぶ」という状況は、弦楽四重奏に専念出来ないとネガティブにばかり語られる日本の室内楽環境を逆手に取った結果なのだ。

面白そうな楽譜を聴衆と共に面白がる明解なレパートリー

モルゴーアQのレパートリーは明快だ。文字通り、「次代へ伝えたい名曲」しか演奏しない。20世紀後半以降の作品が全演目の半分ほどを占めながら、アルディッティQがレパートリーとするヨーロッパ前衛主流の作品は、リゲティなど東欧や北欧ロシア系の定番名曲のみ。クロノスQが好む欧米的価値観を意識的に踏み越える類いの作品も、皆無ではないものの、多くはない。委嘱作品初演や評価の定まらぬ若い作曲家の新作演奏はほぼ皆無だ。

否定的に言っているのでは無い。なにしろ、上述のような活動形態をとるモルゴーアQには、時間は限られているのである。モルゴーアQのレパートリー一覧にあるのは、はっきりした音楽史観に則った「ハイドンから21世紀に至る弦楽四重奏の中で、作曲する側の独りよがりな前衛志向が評価された時代には日陰に置かれた、普通の音楽好きが普通に聴いて興味深いと感じる楽譜たち」だ。その典型が、「プログレ」路線である。ピアソラの大流行以降、「ジャズ」や「タンゴ」が大流行の欧州弦楽四重奏界だが、このような作品を積極的に弾く団体はひとつとしてない。なぜ弾くのかと問われ

ば、恐らくは、「面白いから」と笑うだけだろう。

モルゴーアQは、普通の意味でメイジャーになる気も無いし、そんな必要もない。共に歳をとる聴衆と面白そうな楽譜を一緒に面白がり、若い聴衆には「関心があればいらいっしょい」で充分。プロとして凄い力を持ったちよい悪親爺らが、巨大なハーレーを悠然と走らせるような痛快さ。それがモルゴーアQ。それをカッコ良いと思う者だけが一緒についてくれば、それでいい。

チケット販売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画

「次代へ伝えたい名曲」第13回

モルゴーア・クアルテット

5.12(土)15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演]モルゴーア・クアルテット
荒井英治、戸澤哲夫(ヴァイオリン)、小野富士(ヴィオラ)、藤森亮一(チェロ)

[曲目]
ハイドン:弦楽四重奏曲ト長調 作品33-5 Hob.Ⅲ:41 「ごきげんいかが」
ツェムリンスキー:弦楽四重奏曲 第3番 作品19
ショスタコーヴィチ:弦楽四重奏曲 第9番 変ホ長調 作品117
メタリカ(荒井英治編曲):メタルマスター(マスター・オヴ・パベッツ)

チケット(税込) 一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円
U-25*(バルコニー席対象)1,500円/メンバーズ 正面席3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

「次代へ伝えたい名曲」第13回

モルゴーア・クアルテット

日本を代表する実力派音楽家が、音楽人生を振り返り、次の世代への思いを込めて選んだプログラムを披露するシリーズ「次代へ伝えたい名曲」。いよいよ弦楽四重奏団がシリーズ初登場。

モルゴーア・クアルテットは、東京フィルのソロ・コンサートマスターを長年務めた荒井英治、東京シティ・フィルのコンサートマスター戸澤哲夫、N響ヴィオラ奏者の小野富士、N響首席チェロ奏者の藤森亮一という、日本のオーケストラのトップ奏者たちからなる、日本屈指の弦楽四重奏団だ。レパートリーは、クラシックだけでなくプログレッシヴ・ロックを演奏することでも有名。

今回の公演では、メタリカの曲も演奏する。

弦楽四重奏ファンだけでなく、ヘヴィメタ・ファンも必聴！

モルゴーア・クアルテット(弦楽四重奏)

Morgaua Quartet

ショスタコーヴィチの残した15曲の弦楽四重奏曲を演奏するため1992年秋に結成。2001年4月、第2ヴァイオリンを青木高志から戸澤哲夫に交代。近年は荒井英治編曲で日本コロムビアからリリースしたプログレッシヴ・ロック・アルバム『21世紀の精神正常者たち』『原子心母の危機』『トリビュートロジー』により、ボーダーレスな弦楽四重奏団としても高い評価を受ける。これまでに第10回「村松賞」、2010年度「アリオン賞」、「第14回佐川吉男音楽奨励賞」、「第47回JXTG音楽賞 洋楽部門本賞」受賞。



演奏活動を通じて 見えてきた 自分の進むべき方向

“未来のスター”となる新進気鋭ピアニストが、意欲的なプログラムに挑む「ピアノ・エトワール・シリーズ」。

6月は、2015年ショパン国際ピアノ・コンクール第2位となり、大きな注目を集めるシャルル・リシャール＝アムランが登場。コンクールでも高く評価されたショパン《バラード》や、知られざる作曲家ババジャニアン作品などを演奏する。コンクール後、世界各地を飛び回る人気ピアニストとなった今、思うことは――

取材・文◎柴辻純子（音楽評論家） Photo◎宮川舞子
協力◎ヤマハホール

シャルル・リシャール＝アムラン（ピアノ）
Charles Richard-Hamelin

2015年ショパン国際ピアノ・コンクール第2位。ソナタ賞を同時に受賞。2014年モントリオール国際音楽コンクール第2位、ソウル国際音楽コンクール第3位、同時に特別賞受賞。P・サルドゥレスク、S・ライモン、B・ベルマンに師事し、マックギル大学を2011年に卒業後、イエール大学から修士号授与。2016年モントリオール音楽院卒業。2015年9月、ショパン後期の作品を収録したファーストCD、2016年秋にセカンドCDをリリース。楽器と一体化して紡ぎだされる温かい音、謙虚で成熟度の高い演奏は、世界中から絶賛されている。

Interview

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.34

シャルル・リシャール＝アムラン

Charles Richard-Hamelin

落ち着いて音楽と向き合った ショパン国際ピアノ・コンクール

2015年ショパン国際ピアノ・コンクール第2位に入賞したカナダ出身のピアニスト、シャルル・リシャール＝アムランは、このコンクールまでほぼ無名に近かった。近年国際コンクールは、10代の若いコンテスタントがひしめくが、そうした時代の流れに惑わされず、地道に勉強を続け、自身の音楽を磨いてきた。国際コンクールに挑戦するのはソウル、モントリオールと続いてショパン・コンクールが3つ目。このときすでに26歳と遅咲きだったが、美しい音と正統派の解釈で、にわかに注目を集めた。アムランはどうかと言えば非常に冷静で、ひたむきに音楽と向き合っていた。「ワルシャワで、ショパンの祖国で演奏できて本当に幸せでした。予選、本選とラウンドが進んでも神経質にならず、落ち着いていきました。というのは、ショパン・コンクールは批評が毎日出て、結構シビアなレビューが多いのですが、私には好意的なものが多く、それが心強かったんです。第1次予選で《バラード第3番》を弾いた後、お客さんからたくさんの拍手をいただき、反応も良かったので審査員の方々も良い印象を持っているのでは、と思いながら本選までいきました」

アムランは順調に第3次予選まで突破し、本選では《ピアノ協奏曲第2番》を演奏した。

「それまでこの曲は、弦楽四重奏版やピアノ伴奏で弾いたことはありましたが、オーケストラと合わせるのは初めてでした。でも本選まで気持ち良く進めたので、自信をもって楽しく弾けました」

結果は第2位入賞。第3次予選の《ソナタ第3番》は演奏も解釈も素晴らしく、同時にソナタ賞も受賞した。

《バラード》4曲は ショパンの人生を辿るよう

今回の公演では、得意のショパンの作品を中心に、コンクールで聴衆から絶賛され



チケット販売中

ピアノ・エトワール・シリーズVol.34
シャルル・リシャール＝アムラン ピアノ・リサイタル

6.10(日)15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
[曲目] モーツァルト：幻想曲 ニ短調 KV397 (385g)
ショパン：即興曲 第1番～第3番、幻想即興曲
ババジャニアン：エレジー（アラム・ハチャトゥリアンの想い出）
前奏曲 ― ヴァガルシャバト舞曲
即興曲、カブリッチョ

ショパン：バラード 第1番～第4番

チケット(税込) 一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25* (バルコニー席対象) 1,000円 メンバーズ 正面席3,200円

販売中【3公演セット券】 詳細はP.22

【Vol.35】ダニエル・シュエー 10月28日(日) 15:00

【Vol.36】レミ・ジュニエ 2019年1月12日(土) 15:00

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

た第3番を含む、ショパンの《バラード》全4曲が演奏される。

「《バラード》4曲はショパンの人生を辿るようなものです。第1番はかなり若いときに作られ、第4番は彼が人生の最後にさしかかったときに作曲しました。4曲続けて演奏することは容易ではありませんが、続けることで彼の人生が見えてきます。どの曲も最後のコードが特徴的で素晴らしいですね。このコードをどのように演奏するか、それを4曲続けた場合の表現も興味深いと感じます。《4つの即興曲》もまとめて、今回は楽譜が出版された順番に演奏します。最後に弾く《幻想即興曲》は、実は最初に書かれました。第2番と第3番は意外と演奏される機会が少ないので、ぜひ聴いていただきたいと思っています」

知られざる作品を発掘し 自分の演奏を通じて紹介したい

そしてアルメニア出身の作曲家ババジャニアンの作品を取り上げる。

「コンサートでは、ショパンのような名曲に加えて、あまり知られていないけれども、音楽的に価値のある作品を発掘して紹介したいと考えています。ババジャニアンは、ピアニスト、作曲家として優れていましたが、ソビエト時代の鉄のカーテンに阻まれ、世に知られることがありませんでした。《エレジー》は、民俗音楽をもとにしたメロディアスな作品です。ショパンがマズルカやポロネーズの発想を民俗音楽から得たように、彼もアルメニアの民俗舞曲から

着想しました。副題に〈アラム・ハチャトゥリアンの想い出〉とありますが、ハチャトゥリアンはアルメニアのショパンのような存在でしたから、彼に捧げる思いで書かれたのだと思います。最後に演奏する《カブリッチョ》はヴィルトゥオーズの華やかな曲です」

ショパン・コンクール入賞以後、アムランは世界で200回以上の演奏会に出演してきた。

「カナダのケベックの小さな町から出てきた私の演奏に、世界中の人たちが注目してくれるのは本当に幸せなことです。そして演奏活動を通じて自分の進むべき方向も見えてきました」

そのひとつが、知られざる作品の発掘と紹介である。2枚目のCDにエネスコ《組曲第2番》を録音したのもそうした理由からで、聴衆と新たな音楽を共有することを楽しみにしている。

さて、これまで来日を重ねているアムランだが、劇場のある埼玉県を訪れるのは初めてとのこと。

「日本はどのホールもピアノの質が高く、ホールの音響も素晴らしいですね。彩の国さいたま芸術劇場の評判を聞き、そこで演奏できることを楽しみにしています」

豊かな音楽性を備えたアムランののびやかな演奏が待ち遠しい。

「私の演奏を通じてショパンの世界を発見、あるいは再発見していただき、ババジャニアンとの新たな出会いにも立ち会っていただけたら嬉しく思います」

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第33回 ニューイヤー・スペシャル 日本音楽集団 1.11(木) 埼玉会館 大ホール

気分華やぐ新春を迎えたのは、創立50年以上を誇る和楽器オーケストラ「日本音楽集団」のメンバー。笛、尺八、琵琶、三味線、箏、十七絃、打楽器の奏者が登場、馴染み深い日本民謡のメロディーで始まり、会場は嬉しいな空気に包まれる。続いて楽器紹介を挟みながら宮城道雄《春の海》、琵琶の伴奏による語り物『平家物語』、歌舞伎音楽「幕間三重」と本格的な邦楽の響きを堪能。フランス音楽メドレーでは和楽器の可能性の奥深さに触れ、創立メンバー長澤勝俊によるオリジナル曲《冬の一日》ではその現代的な響きに驚かされる。和楽器のさまざまな表情を味わえるお得感いっぱいのコンサートに客席も大満足だった。



Photo©加藤英弘

DANCE

ジェローム・ベル『Galaーガラ』 1.20(土)～21(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

これまで50都市以上で上演されたという今作は、各開催都市でキャストティングするという仕組み。しかも出演者はプロのバレエダンサー、コンテンポラリーダンサー、俳優、ドラッグクイーン、バトントワラー、車いす利用者、子ども、高齢者など。プロ・アマ、年齢、職業、国籍問わず、多種多様なバックグラウンドをもつ20名の老若男女が集結し、それぞれの人生を映す〈ダンス〉を披露した。後半、互いの動きを不器用にうつし合う様子に観客は笑いながら、現実社会にある〈遠さ〉〈違い〉〈差〉が舞台上から消え去っていることに気づく。劇場とは、われわれが目指すべきユートピアを〈まずやってみる〉場所かもしれない。



Photo©Arnold Groeschel

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.33 パヴェル・コレスニコフ ピアノ・リサイタル 1.27(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

プログラムだけでなく照明やファッションにもこだわった気鋭コレスニコフの日本初リサイタル。1曲目はシューベルトのD145からワルツ6曲を演奏したが、最初と最後に同じ作品を置き6曲で循環する1作品のように聴かせ、続けて演奏されたソナタD537と共に内省的な音楽を繰り広げた。シューマン《ヴィーンの謝肉祭の道化》は繊細なタッチによる詩情豊かな音楽が印象的。後半のショパンはコレスニコフのインスピレーションが光り、時に即興を交えるみずみずしい演奏で魅了した。アンコールのL.クーブラン《組曲 ト短調》より〈ブランクロシュ氏のトンボー〉は新鮮な解釈で、コレスニコフの類稀な感性を強くアピールした。



Photo©加藤英弘

PLAY

蛭川幸雄三回忌追悼公演 『ムサシ』 3.3(土)～11(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

2009年初演、これまでのべ5カ国10都市で上演し約17万人を動員した傑作舞台が、蛭川幸雄の三回忌として4度目の再演を迎えた。舞台冒頭は世紀の一番、宮本武蔵と佐々木小次郎による「巖流島の決闘」。勝負は武蔵の勝利で終わり、その6年後、小次郎は再び武蔵と相まみえる。しかし、あの手この手で、周囲から決闘が阻まれ続け……。笑いをたくさん含んだエンターテインメントには「報復の連鎖はどう断ち切るか」という重いテーマが織り込まれる。同作は日本公演の後、中国・上海へも渡った。蛭川幸雄、井上ひさしという戦争を体験した2人の遺言のような舞台は、平和への祈りのような作品だ。



Photo©渡部孝弘

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第34回 金管五重奏団 Buzz Five 3.6(火) 埼玉会館 大ホール

客席から演奏しながら登場し、和やかな雰囲気で行ったBuzz Fiveによるランチタイム・コンサート。まずはアンサンブル名「バズ」の意味、つまり唇を振動させる「バズィング」で金管楽器が鳴る仕組みを紹介。それぞれの楽器が活躍する曲を演奏して行われた楽器紹介では、ホルンの長さやチューバの重さにお客様から感嘆の声もあがった。滝廉太郎《花》はワルツになったリズィングしたり自在な編曲が楽しく、ジョン・チータム《グラス・メナジェリー》では金管五重奏の魅力をたっぷり聴かせてくれた。アンコール《オー・シャンゼリゼ》に客席は手拍子で応え、金管楽器をより身近に感じさせてくれた充実の演奏会をしめくくった。



Photo©加藤英弘

謹告

マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル公演中止

3月に来日を予定しておりましたマレイ・ペライア氏より、体調不良による医師からの強い勧めのため、3月初旬から始まるアジア・ツアーを全て中止せざるをえない、との正式な申し入れがございました。このため、3月21日(水・祝)に予定しておりました「マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル」につきましては、誠に残念ではございますが、公演を中止いたしました。公演を楽しみにされていた皆様には心よりお詫び申し上げますとともに、事情をご賢察いただき、ご了承賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

【お問い合わせ】公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 制作・営業担当グループ
048-858-5507(休館日を除く10:00～19:00)

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

	PLAY	DANCE	MUSIC	CINEMA
4月				
1日			1 彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第13回 モルゴア・カルテット 関連プログラム 「モルゴア 荒井英治が語る！ コンサートの聴きどころ」 映像ホール 14:00 ※要申込	1日
2月				2月
3火				3火
4水				4水
5木				5木
6金				6金
7土				7土
8日				8日
9月				9月
10火				10火
11水				11水
12木				12木
13金				13金
14土	14 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 林家正蔵と 特選落語家競演会 小ホール 詳細はP.21			14土
15日				15日
16月				16月
17火				17火
18水				18水
19木				19木
20金				20金
21土				21土
22日				22日
23月				23月
24火				24火
25水				25水
26木				26木
27金				27金
28土				28土
29日祝	29 【さいたま公演】 『めにみえない みみにしたい』 小ホール 詳細はP.21			29日祝
30月振休				30月振休
5月				
1火				1火
2水				2水
3木祝				3木祝
4金祝				4金祝
5土祝				5土祝
6日	6			6日
7月				7月
8火				8火
9水				9水
10木	10 さいたまゴールド・シアター 番外公演 『フレフレのモロモロ ゴールド・シアター 2018春』 彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO 詳細はP.4-5		12 彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第13回 モルゴア・カルテット 音楽ホール 15:00 詳細はP.14-15	10木
11金				11金
12土				12土
13日				13日
14月				14月
15火				15火
16水				16水
17木				17木
18金				18金
19土				19土
20日	20			20日
21月				21月
22火				22火
23水				23水
24木	12 13 【吉川公演】 『めにみえない みみにしたい』 吉川市民交流センターおあしす 多目的ホール 12(土) 15:00 13(日) 11:30 / 15:00 詳細はP.21			24木
25金				25金
26土				26土
27日				27日
28月				28月
29火				29火
30水				30水
31木				31木
6月				
1金				1金
2土				2土
3日				3日
4月				4月
5火				5火
6水				6水
7木				7木
8金				8金
9土				9土
10日				10日
11月				11月
12火				12火
13水				13水
14木				14木
15金				15金

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

PLAY

販売中 ※残席僅少

彩の国さいたま寄席 四季彩亭

林家正蔵と特選落語家競演会

4.14(土) 14:00 小ホール

【出演】林家正蔵(ゲスト)、入船亭扇好、

古今亭文菊、林家たま平

チケット(税込) 全席指定 一般3,000円

ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

メンバーズ2,700円

販売中

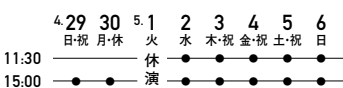
『めにみえない みみにしたい』 4歳以上

【作・演出】藤田貴大

【出演】伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子

【さいたま公演】

4.29(日・祝)～5.6(日) 小ホール



チケット(税込) 全席自由

大人(19歳以上) 2,000円 子ども(4歳以上) 1,000円

【吉川公演】

5.12(土)・13(日)

吉川市民交流センターおあしす 多目的ホール

販売中

12 13 土 日

チケット(税込) 全席自由

大人(19歳以上) 1,500円／子ども(4歳以上) 500円

販売中

さいたまゴールド・シアター番外公演

『フレフレのモロモロ ゴールド・シアター2018春』

詳細はP.4-5

販売中

さいたまネクスト・シアター

世界最前線の演劇1

『ジハードーDjihadー』

詳細はP.6-7

発売日 一般 4.14(土) メンバーズ 4.7(土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭

柳家権太楼と気鋭の若手落語会

7.7(土) 14:00 小ホール

【出演】柳家権太楼(ゲスト) はか

チケット(税込) 全席指定 一般3,000円

ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者)2,000円

メンバーズ2,700円

発売日 一般 5.19(土) メンバーズ 5.12(土)

オックスフォード大学演劇協会(OUDS)来日公演

『十二夜』

8.5(日) 13:30 英語上演／日本語字幕付き

小ホール

【作】W.シェイクスピア

【演出・出演】オックスフォード大学演劇協会(OUDS劇団員)

チケット(税込) 全席自由(整理番号付)

一般2,500円／U-25・2,000円／高校生以下1,000円

発売日

6.6(水)～10(日) 映像ホール

『希望のかなた』

(2017年／フィンランド／98分)

【監督・脚本】アキ・カウリスマキ

【演出・出演】シェルワン・ハジ、サカリ・クオスマネン、

イルッカ・コイヴァ、ヤンネ・ヒューティアイネン はか

8.5(日) 13:30

英語上演／日本語字幕付き

小ホール

【作】W.シェイクスピア

【演出・出演】オックスフォード大学演劇協会(OUDS劇団員)

チケット(税込) 全席自由(整理番号付)

一般2,500円／U-25・2,000円／高校生以下1,000円

発売日 一般 5.26(土) メンバーズ 5.19(土)

平成30年度公文協東コース

松竹大歌舞伎

7.26(木) 昼の部12:30／夜の部17:00

熊谷文化創造館さくらめいと 太陽のホール

【演目】『近江のお兼』、『御所五郎蔵』、『高坏』

【出演】尾上菊之助、坂東彦三郎、中村梅枝、市川團蔵 はか

チケット(税込) 一般 S席 6,500円 A席 4,000円 B席 2,000円

U-25* (A席対象) 1,000円

メンバーズ S席 6,000円 A席 3,600円

DANCE

販売中

コンドルズ 埼玉公演2018新作

『18TICKET』

※フリック・ドゥクフレ/DCA公演との100限定セット券あり

※未就学児チケットあり

詳細はP.8-9

販売中

フィリップ・ドゥクフレ / DCA

『新作短編集(2017)』-Nouvelles Pièces Courtes』

※コンドルズ公演との100限定セット券あり

詳細はP.10-11

発売日 一般 4.28(土) メンバーズ 4.21(土)

『私は言葉を信じないので踊る』

7.21(土)・22(日) 15:00 小ホール

【テキスト・演出・振付】伊藤郁女

【出演】伊藤郁女、伊藤博史

チケット(税込) 全席指定 一般 4,000円／U-25・2,000円

メンバーズ 3,600円

発売日 一般・メンバーズ 4.28(土)

ショート・ストーリーズ・9 ～バレエ・インクレディブル

6.15(金) 14:00／19:00、16(土)・17(日) 15:00

大ホール

【出演】NBA/バレエ団

【演目】アルヴィン・エイリー 『The River』より

宝満直也：新作

クラーク・ティベット：ブルッフ『ヴァイオリン協奏曲』はか

チケット(税込)

一般 SS席 7,900円 S席 5,500円

A席 3,900円／学生券2,100円 Z席 1,500円

メンバーズ SS席 7,200円 S席 5,000円 A席 3,500円

※プレミアム席(9,800円)あり。NBA/バレエ団のみ取り扱い。

【主催】NPO法人NBA/バレエ団

【提携】彩の国さいたま芸術劇場

【公演のお問合わせ】NBA/バレエ団事務局

TEL.04-2937-4931 (月～金 9:00～17:00)

www.nbaballet.org

発売日 一般 5.26(土) メンバーズ 5.19(土)

Noism1×SPAC 劇的舞踊vol.4

ROMEO & JULIETS

9.14(金) 19:00、15(土) 17:00、16(日) 15:00

大ホール

【演出振付・出演】金森 稜

【音楽】S.プロコフィエフ：Romeo and Juliet

【衣裳】YUIMA NAKAZATO

【美術】須長 檀、田根 剛 (Noismレパートリーより)

【原作】W.シェイクスピア『ロミオとジュリエット』

【出演】Noism1+SPAC

チケット(税込) 全席指定 一般5,500円

U-25* (枚数制限あり) 3,500円

【主催】公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

【共催】公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

MUSIC

販売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画

「次代へ伝えたい名曲」第13回

モルゴア・ファルテット

5.12(土)15:00 音楽ホール

詳細はP.14-15

販売中【3公演セット券】【Vol.34 1回券】

発売日【Vol.35 1回券】一般 6.9(土) メンバース 6.2(土)

ピアノ・エトワール・シリーズ

Vol.34 シャルル・リシャル＝アムラン

詳細はP.14-17

Vol.35 ダニエル・シュエ

Vol.36 レミ・ジュニエ

音楽ホール

【日時・曲目】

【Vol.34 シャルル・リシャル＝アムラン】

6.10(日) 15:00

【曲目】モーツァルト：幻想曲 ニ短調 KV 397 (385g)

ショパン：即興曲 第1番～第3番、幻想即興曲

ババジャニアン：エレジー (アラム・ハチャトゥリアンの想い出)

前奏曲－ヴァガルシャハト舞曲

即興曲、カプリッチョ

ショパン：バラード 第1番～第4番

【Vol.35 ダニエル・シュエ】

10.28(日) 15:00

曲目調整中

【Vol.36 レミ・ジュニエ】

2019年 1.12(土) 15:00

【曲目】

J.S.バッハ：カプリッチョ「最愛の兄の旅立ちに寄せて」BWV 992

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第23番 ヘ短調 作品57「熱情」

ショパン：4つのマズルカ 作品17

ストラヴィンスキー：「ベトゥーシュカ」からの3楽章

チケット(税込)

【3公演セット券】一般・メンバース 正面席 9,000円

バルコニー席 7,500円／U-25* (バルコニー席対象) 3,000円

【Vols.34～36】

各回 一般 正面席 3,500円 メンバース 正面席 3,200円

バルコニー席 2,500円／U-25* (バルコニー席対象) 1,000円

※Vol.36 発売日 一般 8月11日(土・祝)／メンバース 8月4日(土)

販売中

埼玉会館ランチタイム・コンサート第35回

天羽明恵(ソプラノ)

6.29(金) 12:10(終了予定13:00)

埼玉会館 大ホール

【出演】天羽明恵(ソプラノ)、古藤田みゆき(ピアノ)

【曲目】モーツァルト：すみれ KV 476、クローエに KV 524、

《踊れ、喜べ、泣きいなる魂よ》より〈アレルヤ〉

越谷達之助：初恋

山田耕筰：からたちの花 ほか

チケット(税込) 全席指定 1,000円

販売中

埼玉会館ファミリー・クラシック

夏休みオーケストランド! 4歳以上

7.28(土) 14:00(休憩有り16:00終了予定)

埼玉会館 大ホール

【出演】飯森範親(指揮)、朝岡 聡(ナビゲーター)、

村田夏帆(ヴァイオリン／第71回全日本学生音楽コンクール

全国大会小学校の部第1位)、東京交響楽団(管弦楽)

【曲目】

ドリーブ：バレエ音楽〈コッペリア〉組曲より〈マズルカ〉

小室昌広：ディズニーのメロディによる管弦楽入門

チャイコフスキー：《ヴァイオリン協奏曲》より第1楽章(ヴァイ

オリン＝村田夏帆)

ドビュッシー(ビュッセル編曲)：《小組曲》より第4曲〈バレエ〉

【指揮者にチャレンジ!】ピゼー：歌劇《カルメン》前奏曲から

【みんなで歌おう&演奏しよう!】杉本竜一：Believe(ピリーヴ)

ロッシニ：歌劇《ウィリアム・テル》序曲

チケット(税込)

一般 S席 大人 4,000円 子ども(4歳～中学生) 2,000円

A席 大人 3,500円 子ども(4歳～中学生) 1,500円

メンバース S席 大人 3,600円 A席 大人 3,200円

販売中

大塚直哉レクチャー・コンサート

J.S. バッハ「平均律クラヴィーア」の魅力

ポジティブ・オルガンvsチェンバロ その1

9.2(日) 14:00 音楽ホール

【出演】大塚直哉(オルガン、チェンバロ、お話)

【曲目】

J.S. バッハ《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より 第1番～第12番

チケット(税込) 全席自由 2,000円

発売日 一般 4.21(土) メンバース 4.14(土)

ベルリン・フィル ブラス・トリオ

9.30(日) 14:00 音楽ホール

【出演】ガボール・タルケヴィ(トランペット)、アンドレイ・ズスト

(ホルン)、イェスパー・ブスク・ソレンセン(トロンボーン)、児嶋

一江(ピアノ)

【曲目】

ブーランク：ホルン、トランペットとトロンボーンのためのソナタ(三重奏)

シューマン：歌曲集「詩人の恋」より(トロンボーン・ピアノ) ほか

チケット(税込) 全席指定 一般 4,500円

U-25* 2,000円／メンバース 4,100円

発売日 一般 4.21(土) メンバース 4.14(土)

NHK交響楽団

井上道義(指揮)、辻 彩奈(ヴァイオリン)

10.6(土)16:00 埼玉会館 大ホール

【曲目】モーツァルト：歌劇《ドン・ジョヴァンニ》序曲

モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 KV 219「トルコ風」

ブラームス：交響曲 第4番 ホ短調 作品98

チケット(税込) 一般S席 6,500円 A席 5,500円 B席 4,500円

U-25* (B席対象) 2,000円

メンバースS席 6,000円 A席 5,000円 B席 4,000円

※開演前指揮者によるプレコンサートトークを予定

発売日 一般 4.21(土) メンバース 4.14(土)

ヴァレリー・アフアナシエフ ピアノ・リサイタル

10.13(土)15:00 音楽ホール

【曲目】シューベルト：3つのピアノ曲(即興曲集) D 946

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第17番 ニ短調「テンペスト」

ピアノ・ソナタ 第23番 ヘ短調「熱情」

チケット(税込) 全席指定 一般 正面席 7,500円

バルコニー席 6,000円／U-25* (バルコニー席対象) 3,000円

メンバース 正面席 6,800円

発売日 一般 5.19(土) メンバース 5.12(土)

バッハ・コレギウム・ジャパン

J.S. バッハ《クリスマス・オラトリオ》

11.24(土)15:00 音楽ホール

【出演】鈴木雅明(指揮)

ハナ・ブラシコヴァ(ソプラノ)

クリント・ファン・デア・リンデ(アルト)

ザッカリ・ワイルダー(テノール)

クリスティアン・イムラー(バス)

チケット(税込) 全席指定 一般 正面席 8,500円

バルコニー席 7,500円／U-25* (バルコニー席対象) 3,000円

メンバース 正面席 7,700円

※11月17日(土)関連レクチャーあり。要申込。詳細は財団ホームページをご確認ください。

発売日 一般 6.10(日) メンバース 6.9(土)

埼玉会館ランチタイム・コンサート第36回

NHK交響楽団メンバー&梯 剛之(ピアノ)

9.11(火) 12:10(終了予定13:00)

埼玉会館 大ホール

【出演】白井 篤(ヴァイオリン)、中村洋乃理(ヴィオラ)、

市 寛也(チェロ)、西山真二(コントラバス)、梯 剛之(ピアノ)

【曲目】シューベルト：ピアノ五重奏曲「ます」より ほか

チケット(税込) 全席指定 1,000円

発売日 一般 6.10(日) メンバース 6.9(土)

アレクセイ・ゲラシメス

バーカッション・リサイタル

11.4(日)15:00 小ホール

【曲目】ゲラシメス：アスヴェンチュラス

クセナキス：ルボン B ほか

チケット(税込) 全席自由 一般 3,300円

U-25* 2,000円／メンバース 3,000円

※アフタートークを予定

岩松了氏の書き下ろし

『薄い桃色のかたまり』が

第21回鶴屋南北戯曲賞を受賞しました!

岩松了氏の戯曲、『薄い桃色のかたまり』が第21回鶴屋南北

戯曲賞(光文文化財団主催)を受賞しました。本作は劇作家で

あり、演出家、俳優の岩松氏が、さいたまゴールド・シアターに

書き下ろした『船上のピクニック』、『ルート99』に続く3作目。

氏はさいたまゴールド・シアター第7回公演(2017年9～10

月上演)において演出も手掛けました。



4月7日より全国10館で3週間限定上映!

三回忌追悼企画『蜷川幸雄シアター2』

“世界のニナガワ”として日本の演劇界をリードし続け、ダイナ

ミックな演出で数多くの話題作を世に放ち、演劇に命を捧げた

蜷川幸雄。前回実施した蜷川シアターが好評につき、第二弾

が決定。今回も厳選した3作品を全国10カ所の映画館で上

映します。

◆『NINAGAWA・マクベス』本編:146分

出演：市村正親 田中裕子 橋本さとし 柳楽優弥 蜷川哲朗 吉田鋼太郎 ほか

【上映期間】4月7日(土)～ 4月13日(金)

◆『身毒丸 ファイナル』本編:90分

出演：藤原竜也 白石加代子 ほか

【上映期間】4月14日(土)～ 4月20日(金)

◆『じゃじゃ馬馴らし』(彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾) 本編:147分

出演：市川猿之助 寛利夫 ほか

【上映期間】4月21日(土)～ 4月27日(金)

【上映館】MOVIXさいたま、新宿バルト9 ほか全国の10映画館にて上映

チケット発売中

【料金(税込)】1作品につき、前売券:2,200円 当日券:2,500円

【前売券販売場所】SAFチケットセンター、ホリプロチケットセンター ほか

詳しくは http://hpot.jp/stage/nt2



「光の庭プロムナード・コンサート」×

「ばらまつり2018」

「光の庭プロムナード・コンサート」は、彩の国さいたま芸術劇場の

自然光の降り注ぐ情報プラザで、ポジティブ・オルガン(小型のパ

イプオルガン)の音色を楽しむ40分間のコンサート。5月は、劇場

から徒歩5分ほどの与野公園で開催される「ばらまつり」との同時

開催です。今年も地域のバラ愛好家の方が育てた美しい薔薇を

バックにオルガンとハーブのアンサンブルをお届けします。約170

種、約3,000株もの美しい薔薇が咲き誇る「ばらまつり」とともに

どうぞお楽しみください。

光の庭プロムナード・コンサート第99回

ばらまつりスペシャル 香りただよう優雅な響き

【日時】5月19日(土) 14:00 ※入場無料・年齢制限なし

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ

【出演】徳岡めぐみ(オルガン)、片岡詩乃(ハーブ)

【曲目】グランジャンニ：古典様式によるアリア 作品19

ブラームス：一輪の薔薇が咲いて ほか

【お問合わせ先】彩の国さいたま芸術劇場(音楽担当)

TEL.048-858-5506 ※休館日を除く10:00～19:00

「ばらまつり2018」

【日時】5月19日(土)・20日(日) 9:00～17:00

【会場】与野公園(中央区本町西1丁目地内)

【お問合わせ】ばらまつり実行委員会 TEL.048-647-8339



過去の公演の様子 Photo©加藤英弘

サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。

こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2018.3.15現在／一部未掲載)

㈱与野フードセンター／㈱亀屋／㈱松本商会／㈱香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／㈱パシフィックアートセンター

㈱アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／カヤバ システム マシナリー㈱／㈱タムロン／㈱十萬石ふくさや／森平舞台機構㈱

東芝エルティエーエンジニアリング㈱／埼玉トヨタ自動車㈱／武蔵野銀行／浦和ロイヤルバインズホテル／アルピーノ村／国際照明㈱／埼玉スバル

㈱佐伯紙工所／㈱太陽商工／㈱しまむら／不動開発㈱／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／㈱栗原運輸／彩の国S Pグループ／㈱ブラネッツ／㈱デサン

セントラル自動車技研㈱／丸美屋食品工業㈱／ポラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット㈱／公認会計士 宮原敏夫事務所／㈱埼玉交通

サイデン化学㈱／アイル・コーポレーション㈱／五光印刷㈱／旭ビル管理㈱／ヤマハサウンドシステム㈱／㈱エヌテックサービス／㈱クリーン工房

㈱つばめタクシー／㈱サンワックス／㈱綜合舞台／(一財)さいたま住宅検査センター／㈱国大グループホールディングス／オーガスアリーナ㈱

イープラス／六三四堂印刷㈱／(医)櫻会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／(医)山粋会 山崎整形外科／サンケイリビング新聞社／㈱三和広告社

㈱セノン／ショッパー／㈱松尾楽器商会／JA埼玉県中央会／日本大学芸術学部／㈱川口自動車交通／㈱ホンダカーズ埼玉／ファミリーマートあすまや

㈱杉田電機／丸茂電機㈱／太平ビルサービス㈱さいたま支店／㈱片岡食品／㈱協栄㈱ヨコハマタイヤジャパン／NTT東日本 埼玉事業部／チャコット㈱

㈱平和自動車／光陽オリエントジャパン㈱／さくらMusic Office／クワバラ・バンぶキン／駒橋内科医院／東和アークス㈱／テレビ埼玉

日本ビストンリング㈱／金井大道具㈱／国立大学法人 埼玉大学／㈱七越製菓／ビーンズ与野本町／(一社)埼玉県経営者協会／㈱コマーム

㈱原一探偵事務所／飯能信用金庫／川口信用金庫／青木信用金庫／㈱和幸楽器／新日本ハウス㈱／大栄不動産㈱／相川宗一／㈱ハイデイ日高

浦和実業学園中学・高等学校／三井隆司／大和証券㈱／AGS㈱／㈱ジャスト／㈱ワイイーシーソリューションズ／白神久吉／医療法人青木会

むさし証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／株式会社シルバーデントタルラボラトリー

お問合わせ (公財)埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507



はやしや・ひこいち
1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる『NHK 新人演芸大賞落語部門』で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。

今年も網走に来たぜ 氷上のワカサギ釣り

文と写真 ● 林家彦いち

普段は座布団の上で着物でお話しをするというお仕事。そのせいか周囲にはインドア派が多い。海や山に出かけるという囃家は少数派。そんな少数派代表!?!の知られざる愉快な生態をお届けします。

正月興行が落ち着いた1月下旬、向かった先は網走湖。氷上のワカサギ釣り。氷に穴を開けて糸を垂らす。短い竿が特徴。他の釣りと違うところはなにより寒すぎる。ほぼ毎年通い始めて十年弱。このワカサギ釣りのメンバーが油断のならない釣り師ばかりで、竿を自作している人も多い。特に竿の穂先は自分の仕事に関わるもので製作している。例えば蕎麦屋は醤油差し、医者はレントゲンフィルム素材、作家は万年筆……もお面白がっているのだ。というわけで自分は、古くなった扇子を使うことに。扇子をバラし、中骨を重ね、竿の先端部分を作る。それを柄の部分に装着して完成。リール（釣り糸を巻き取る道具）は使わない。水深が浅いことと、濡れた糸は巻いている途中で凍ってしまうからだ。

空を眺めたり、オジロワシを眺めてホットワインを飲むのも醍醐味。一日百匹程度釣れる。扇子竿はどうにも魚のあたりが取りづらい。予備で持参した市販の竿に取り替える。いやあこりゃあいい。やはり「竿は竿屋」である。日



が傾き始めると。もう少し、もう一匹！と大人たちがだんだん熱くなる一方気温は冷えてゆく。小さなワカサギに夢中。会話がなくなり、静けさの大自然の雪、氷のかすかな音だけが聞こえてくる。氷上から「今年も網走に来たぜ」と小さく呟く。

時間となり、さあ帰ろうと腰をさすりながら湖面を歩きながら帰る。疲れ果てた釣り師の後ろ姿を見ると、まるで網走刑務所の強制労働を終えた囚人たちが帰る姿のようだった。見たことはないが。この後、宿の大浴場で体を解凍した。

北国の宿の大浴場で「ああ～とける～」という人がいたらワカサギ釣り師の可能性も高い。

「釣れましたか？」と聞いてみるのもいいかも。



演劇担当 @Play_SAF

舞踊担当 @Dance_SAF

音楽担当 @Music_SAF



Facebook

彩の国さいたま芸術劇場 @saitamaartstheater

埼玉会館 @saitamakaikan



Instagram

埼玉会館 @saitama_kaikan

www.saf.or.jp

埼玉アーツシアター通信 第74号（4月～5月）

平成30年4月1日発行（隔月1日発行）

発行人：竹内文則

発行：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500